

AFTER NIGHT FALLS

LYNZIE JEFFERSON

アフター・ナイト・フォールズ
リンジー・ジェファーソン

2015年4月4日- 5月10日
20:00 - 日の出
毎日

ARTZONE
<http://artzone.jp>
&
MEDIA SHOP gallery
<http://www.media-shop.co.jp>



Night Light (MOMA), Lynzie Jefferson, 2013

このたびYAPは、ARTZONEとMEDIA SHOP galleryにて、リンジー・ジェファーソンの個展『アフター・ナイト・フォールズ』を開催いたします。*1

この展覧会では、リンジー・ジェファーソンが2013年から取り組んでいる『ナイトライト』を取り上げます。ナイトライトはプライベート空間で用いられるため、家の中でみることが自然なことです。公共の場でみることがありません。しかしながら、彼女のナイトライトは公共空間の中にあります。一般的に公共空間は誰でも入ることができますが、深夜においては誰も入ることができません。そのため、公共空間にナイトライトを設置する必要はありません。公共空間が開いているときのみ私たちは、彼女のナイトライトをみることができますが、それは光ってはいません。そもそも大抵の人々は彼女が設置したナイトライトの存在に気がつかないでしょう。もしあなたがそれに気がついたとしても、光っているナイトライトを直接見ることはできません。ジェファーソンのナイトライトは、暗闇の中で誰もいない誰かのために静かに瞬くのです。

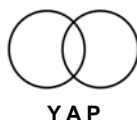
それは何を意味するのでしょうか。なぜ彼女はこのようなことをしなければならないのでしょうか。彼女の実践は彼女からのいくつかの質問のように聞こえます。「あなたはこれがアートだということに気づきましたか?」、「アートとアートではないものの違いは何ですか?」、「アートは見えるものですか?それとも見えないものですか?」、「そもそもあなたはこの世界の何をしていますか?」。今夜も暗闇で輝きながら、それはあなたの答えを待ち続けているでしょう。あるいはあなたにこのように尋ねているのかもしれない。「ライトは人のためだけにあるのでしょうか?」。



リンジー・ジェファーソン (2013年- YAP) は、プライベートとパブリックに関心があります。例えば2013年には、MoMAという名前の公共空間の中に複数のナイトライトを設置しました。あるいはYAP21というパーティーでは、ひとつのナイトライトを設置し、その壁とナイトライトの前を歩く人々を、Ustreamというライブカメラを使って放送しました。このような実践をすることで、リンジー・ジェファーソンはプライベートとパブリックに関する幾つかの新しい認識を私たちに伝えようとしています。

*1 もともとYAPは、グループ展『ピフォー・ナイト・フォールズ』*2への参加を依頼されました。しかし今回YAPは、この展覧会へのあからさまな参加を退き、「同じ会期に同じ会場で別の展覧会を開催する」というプロポーザルを提案し、本展『アフター・ナイト・フォールズ』が開催されることになりました。カタログ『ピフォー・ナイト・フォールズ』では、参加と不参加の間の立ち位置を試みています。こちらもぜひお楽しみください。

*2 本展『アフター・ナイト・フォールズ』と同じ会期に同じ会場で開催される別の展覧会。 <http://artzone.jp/?p=1819>



YAP